

# 平成29年度 北海道紋別養護学校 学校評価結果

平成29年度の学校評価アンケートの結果をお知らせします。  
アンケート結果からの分析と改善の方策、職員アンケート、保護者アンケートのまとめと集計結果を掲載しました。ご覧ください。

平成30年3月27日  
北海道紋別養護学校長

## 1 本年度の重点目標

目的と根拠を明確にし、「見やすさ・聞きやすさ・わかりやすさ」を追求することにより、学校力をより一層向上させる。

### (1) 指導の重点

目的と根拠を明確にし、ねらいに迫る教育活動の展開（何のために）

見やすさ・聞きやすさ・わかりやすさを重視し、指導目標に向けて児童生徒の自発性を引き出す授業（どうやって）

児童生徒一人一人の課題に応じた指導や環境の工夫（何をめざして）

### (2) 経営の重点

目的と根拠を明確にし、効果的・効率的な校務の推進（何のために）

情報・方針の共有と協働体制の強化（だれと、何をめざして、どうやって）

教育公務員としての自覚と社会規範意識の意識化による服務規律の遵守

## 2 平成29年度学校評価分析結果と改善の方策

評価項目／改善方策	保護者評価	職員評価
○学校経営 ・教育目標 ・学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標、経営方針の説明について平均値が全項目3.0以上と高い結果となった。</li> <li>保護者説明会等での丁寧な説明の結果と捉えることができる。今後わかりやすい方法の工夫、丁寧な説明が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織運営等は、「適切な時間設定で効率的な会議や打ち合わせが行われている」が平均値2.6、「情報共有や連携が図られ、組織的効率的に業務が行われている」が平均値2.8と、全体の中では低い結果であった。</li> </ul>
改善の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き学校経営方針等について職員に分かりやすく説明し、目標達成のため各部間で連携し協働して教育活動を推進する。また、保護者への複数回の全体説明の機会を設けたり、意見を交換する機会を持つ。</li> <li>学部や分掌等の業務を組織的・効果的に推進するため、計画性、協働性を高める。</li> </ul>	
○教育活動 ・学級経営 ・授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の最高得点は、「個別の指導計画、寄宿舎の指導計画はわかりやすく書かれ、わかりやすく説明されている」で平均値が3.7となった。</li> <li>小学部、中学部、高等部の学部間の指導の引継ぎに関する項目は平均値が2.6と低い結果となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の最高得点は、「困ったときやわからないことを気軽に相談し合える環境、相手がいる」で平均値3.6となった。</li> <li>小学部、中学部、高等部のつながりに配慮した指導の充実に関する項目は、平均値2.9ではあるが、記述の中でも多く意見があった。</li> </ul>
改善の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部間引継ぎについて保護者に情報提供し、個別の教育支援計画、個別の指導計画の内容を確実に引き継ぎ、指導を充実する。</li> <li>小学部、中学部、高等部の教育活動を見直し、連続性のある教育内容・方法を改善充実する。</li> </ul>	
○連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お子さんの健康状態や学習等の様子について学級担任や舎室担当がわかりやすく伝えている」は平均値3.6と高い結果となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者と担任、寄宿舎室担の情報共有等の連携について平均値が3.2と保護者評価と比較して低い結果となった。</li> </ul>
改善の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部間連携や担任と寄宿舎室担の連携、保護者と学校、寄宿舎の連携について、保護者説明会や懇談会、寄宿舎懇談会等の機会を設定し、継続して取り組んでいく。</li> </ul>	
○PTA活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の平均値が2.2と低い結果であった。</li> </ul>	
改善の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や職員が参加しやすくするため活動内容や業務を見直し、改善し、活動を活性化させる。</li> </ul>	

## 平成29年度学校評価 教職員アンケートまとめ

よくあてはまる(4) あてはまる(3) あまりあてはまらない(2) あてはまらない(1)  
全項目の平均は3.2(保護者の平均は3.2)

### 1 得点の高い項目

<p>&lt;設問 5&gt; 困ったときやわからないことを気軽に相談し合える環境があり、学校内に相談できる相手がいる(評価点3.6)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学部反省や学年・ブロック、授業の打ち合わせがきめ細かくされていることなどにより高得点につながっている。また、日常的に指導について話をする機会が多かったことも影響していると考えられる。</li></ul> <p>&lt;設問 3 1&gt; 給食や調理学習の際、アレルギーや異物混入に対する危機管理に万全を期している(評価点3.6)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・安全面及び衛生面への配慮や緊急時の連絡系統など、危機管理の意識向上が図られていると考えられる。</li></ul> <p>&lt;設問 3 2&gt; 学習費や行事費は適切に使うことができている(評価点3.6)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学習費に関しては年度当初に予算書を作成し、それに沿って執行することができている。</li></ul> <p>平成28年度から評価点が上がった項目(+0.3)</p> <p>&lt;設問 1 4&gt; 児童生徒の将来を見据えて、地域資源を活用した教育が行われている</p> <p>&lt;設問 2 4&gt; 児童生徒の手本となるように言動、身なり、マナー等に配慮するとともに、服務規律を意識して行動している。</p> <p>&lt;設問 3 2&gt; 学習費や行事費は適切に使うことができている</p> <p>&lt;設問 3 3&gt; P T A活動に参加している</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### <考察>

- ・昨年度の反省を受けて「地域資源の活用」「学習費や行事費」「P T A活動」を意識して取り組んだ結果として、評価点が上がっている項目がある。また、服務規律、危機管理の意識向上が図られていると考えられる。
- ・「相談し合える環境や相手がいる」の評価が高く、一人で抱え込まずに相談や話し合いができていることは、本校の良いところである。

### 2 得点の低い項目

<p>&lt;設問 3&gt; 適切な時間設定で効率的な会議や打ち合わせが行われている(評価点2.6)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・平成28年度から評価点(0.4)が下がった項目である。</li><li>・47パーセントが(あまりあてはまらない)と回答している。</li><li>・会議規定をベースに会議を運営しているが、各種委員会、学部会など見通しを持って効率的に会議を行うための資料や提案の準備などが不十分なことがあり、運営面に課題が見られる。また、打ち合わせの時間の設定と効率的に行うことも課題である。</li></ul> <p>&lt;設問 7&gt; 各学部や分掌、棟、事務部の情報共有や連携が図られ、組織的、効率的に業務が行われている(評価点2.8)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・他の学部は何をしているか、他の分掌は何をしているか情報共有が希薄で組織としての運営が十分でない。</li></ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<考察>

- ・会議の運営に関しては、見通しを持ち資料の計画的な作成と事前配布の徹底、諸会議の目的の明確化や形式的にならないことなどの工夫をしていく必要がある。また、職員が児童生徒のことについて話すことができているが、反面、効率的な打ち合わせにはなっていない。限られた時間の中で打ち合わせを効率よくするための工夫が必要である。
- ・連絡調整会で学部・寄宿舎の連携、運営 委員会で分掌間の連携の活性化を図り、情報共有をして課題解決に向けて取組んでいけるようにする。

3 評価点の高い低いには表れないが多かった意見と自由記述

①多かった意見

- ・分掌の業務内容や量は適切に配置されておらず、偏りがある。(7)
- ・小・中・高等部のつながりに配慮した教育課程の編成ができていない。(8)

②自由記述

- ・「初任者研修」について、内容の改善、見直しについて記述があった(3)
- ・「分掌業務」について、業務内容の見直しについての記述があった(4)
- ・「寄宿舎の行事」について、行事精選についての記述があった(1)
- ・「長期休業中の研修」について、参加の仕方についての記述があった(1)

<考察>

- ・教務部を中心に新学習指導要領を踏まえた教育課程の整備に着手しているところである。今後は学部間のつながりを意識した教育課程の改善・整備、教材・教具や指導方法などの交流や共有化などの取組を進めていく必要がある。

4 教職員評価より保護者評価の得点が低い項目

○アレルギーや異物混入の対策が適切になされ、安全に給食が提供されている  
(教職員3.6) - (保護者2.9) = -0.7

- ・<あまりあてはまらない>が6名で、保護者に対する説明や情報共有が不十分であると云える。

○小学部、中学部、高等部の学部間で指導が引き継がれている  
(教職員2.9) - (保護者2.6) = -0.3

- ・小学部では学部間の引き継ぎを経験していないので「わからない」と回答した保護者が多かった。他の学部で引き継がれていないと実感している保護者が何名かいる。

○本校は、本人や保護者の願いやニーズに応じた教育活動を行っている  
(教職員3.3) - (保護者3.1) = -0.2

- ・評価点は平均以上であるが、学部や個人による対応の差も考えられ、評価の低い保護者が何名かいる。

<考察>

- ・アレルギーに関しては北海道教育委員会の通知やマニュアルに従って医療機関による判断をもとに、施設・設備や現在の調理員数の中で可能な限り対応していること、アレルギー食物が口に入らないように、朝の学部打ち合わせ(寄宿舎は引き継ぎ)での確認、メニュー表の確認、配膳時の目視など対応していること、献立表を改訂したり、給食委員会で献立チェックを行っている。

異物混入に関しては、調理段階の取組はもとより、配膳時、食べ物が子どもたちの口に入る前に複数の目で確認している。学校での取組を理解していただくとともに、栄養教諭、調理員、業者と連携する中で今後も安心安全な給食を提供できるようにしていく。

- ・個別の指導計画を利用し、個々の児童生徒の配慮事項を確実に引き継いでいくことや引き継ぎ内容を懇談の中で保護者と確認することを行っていく。安心して新しい学部、進路先へ移行できるように、引き継ぎ内容や方法を工夫していくことが必要である。
- ・授業内容や行事などに関する日常的な情報共有、個別懇談による指導方法などの丁寧な説明が評価されていると考える。一方で「あまりできていない」という評価も見られるため、学部及び全体で再確認や共通理解を図る必要があると考える。

#### <まとめ・今後の方針>

- ・半数以上の職員が効率的な会議や打ち合わせができていないと感じている。会議規定を見直し、会議・指導打ち合わせ・準備の時間を確保していく。会議の運営に関しては効率的な会議を行うため見通しを持ち事前準備を行うこと。打ち合わせに関しても効率的になるように事前準備、内容の精選など各学部・寄宿舍で工夫していく必要がある。
- ・教務部を中心に新学習指導要領を踏まえた教育課程の整備に着手しているところであるが、小中高、学部間のつながりを意識した教育活動ができるように、教育課程を編成していくことが急務である。
- ・教職員評価より保護者評価の得点が低い項目、差がある項目がある。保護者と一層きめ細かなコミュニケーションを図り、児童生徒の指導方針をしっかりと共有し、家庭と学校がそれぞれの役割を果たすことができるようにしていくことが必要である。以上の評価結果、考察から「効率的な会議や打ち合わせ」「学部間のつながり」「保護者との連携」を来年度の重点課題に位置づける。

## 平成29年度学校評価 保護者アンケートのまとめ

よくあてはまる(4) あてはまる(3) あまりあてはまらない(2) あてはまらない(1)  
わからない(0)

全項目の平均は3.2(教職員の平均は3.2)

### 1 得点の高い項目

<設問5>「個別の指導計画」「寄宿舎の指導計画」はわかりやすく書かれ、わかりやすく説明されている(評価点3.7)

- ・今年度の学校経営方針である「見やすさ」「聞きやすさ」「わかりやすさ」が高得点につながったと思います。今後もわかりやすさを意識して説明に取り組んでいきます。

<設問10>お預かりしている学習費や行事費等は正しく使われている

(評価点3.6)

- ・年度当初に予算書を作成し、それに沿って執行することができています。

<設問12>お子さんの健康状態や学習等の様子について、学級担任や舎室担当がわかりやすく伝えている(評価点3.6)

- ・児童生徒への指導について学部や棟での打ち合わせなどを通してきめ細かく進めていること、登下校や帰省舎時、個別懇談、連絡帳などによる情報交換の成果だと考えます。今後とも情報や方針を共有して指導を進めます。

### 2 得点の低い項目

<設問18>PTA活動に参加している(2.2)

- ・遠隔地の保護者や家庭に子どもを置いて出かけることが難しいため、参加することが難しいこともあり得点が低くなっていると考えます。活動に参加する方が一定の方になったり、保護者同士のつながりが足りないという意見もあり、無理なく参加できる時間帯や内容をさらに工夫していきます。

<設問6>小学部、中学部、高等部の学部間で指導が引き継がれている(2.6)

- ・「わからない」と回答した保護者が数名いましたが、引き継がれていないと実感している保護者も何名かいました。

個別の指導計画を活用し、個々の児童生徒の配慮事項を確実に引き継いでいくことや引き継ぎの内容を懇談の中で保護者と確認することを行っていきたいと考えます。安心して新しい学部や進路先へ移行できるように、引き継ぎ内容や方法を工夫していきます。

# 平成29年度 紋別養護学校 学校評価教職員アンケート

全体数 57

回収数 57

回収率 100%

○評価4(よくあてはまる) 3(あてはまる) 2(あまりあてはまらない) 1(あてはまらない)

※全体の平均値 3.2 でした。

※行政職員は、「学校は、」の視点で回答してください。

□ は、昨年度より追加した項目    ■ は、低い評価項目    ■ は、高い評価項目

全校職員

	評価項目	平均値	評価4	評価3	評価2	評価1	非該当	
学校経営について	※ 1 学校教育目標や経営方針、経営の重点等の共通理解が図られ、各学部、寄宿舎、分掌、事務部等の計画に反映されている。	3.3	15 26%	42 74%	0 0%	0 0%	0 0%	
	2 学校課題解決のための重点の共通理解が図られ、重点に沿った教育活動や各部の業務推進がなされている。	3.2	12 21%	44 77%	1 2%	0 0%	0 0%	
	3 適切な時間設定で効率的な会議や打ち合わせが行われている。	2.6	8 14%	20 35%	27 47%	1 2%	1 2%	
	4 学部教師間での話し合いは、次回の授業や指導に生かせるものになっている。	3.3	20 35%	30 53%	5 9%	0 0%	2 4%	
	5 困ったときやわからないことを気軽に相談し合える環境があり、学校内に相談できる相手がいる。	3.6	37 65%	17 30%	2 4%	1 2%	0 0%	
	6 分掌の業務内容や量は適切に配置されていて、分掌による偏りはない。	2.9	7 12%	38 67%	11 19%	0 0%	1 2%	
	7 各学部や分掌、棟、事務部の情報共有や連携が図られ、組織的、効率的に業務が行われている。	2.8	5 9%	36 63%	15 26%	0 0%	1 2%	
	8 学校予算は、教育活動の必要性、緊急性、優先度に基づいて計画的に執行されている。	3.2	18 32%	33 58%	5 9%	0 0%	1 2%	
	9 学校の教育活動について地域へわかりやすく発信し、十分に理解啓発を行っている。	3.3	18 32%	35 61%	2 4%	0 0%	2 4%	
教育活動・指導について	10 生活年齢を踏まえるとともに、小・中・高等部のつながりに配慮した教育課程の編成ができています。	2.9	7 12%	36 63%	12 21%	0 0%	2 4%	
	11 授業時数、日課、時間割は児童生徒の実態に応じたものになっている。	2.9	10 18%	33 58%	12 21%	1 2%	1 2%	
	12 教育課程の評価が適切に行われ、指導計画や授業改善につながっている。(教諭のみ回答)	3.1	8 14%	26 46%	5 9%	0 0%	18 32%	
	13 学校(寄宿舎)行事や学校(寄宿舎)の校外学習の内容や回数、時期は適切である。	3.0	13 23%	30 53%	12 21%	1 2%	1 2%	
	14 児童生徒の将来の生活を捉えて、地域資源等を活用した教育が行われている。	3.3	19 33%	35 61%	1 2%	0 0%	2 4%	
	教育課程について	※ 15 保護者と連携して「個別の支援・指導計画」「寄宿舎個別の指導計画」を作成し、児童生徒の課題や目標、手立てがわかりやすいものになっている。	3.2	17 30%	31 54%	5 9%	0 0%	4 7%
16 個別の指導計画や寄宿舎個別の指導計画の目標、手立て、評価は日々の授業や指導に活用されている。		3.3	18 32%	34 60%	1 2%	0 0%	4 7%	
17 本人・保護者の願いやニーズを踏まえた指導を行っている。		3.3	18 32%	33 58%	2 4%	1 2%	3 5%	
18 児童生徒の障がいや発達段階に応じた授業や指導を行っている。		3.3	18 32%	34 60%	1 2%	0 0%	4 7%	
19 児童生徒の障がいや発達段階に応じた(学習)環境の整備に努めている。		3.4	21 37%	32 56%	1 2%	0 0%	3 5%	
20 教室等が整理整頓され、学習しやすく安全な環境になっている。		3.2	20 35%	26 46%	8 14%	0 0%	3 5%	
21 児童生徒のことに、学校(寄宿舎)と保護者との間で情報や方針が共有できている。		3.2	15 26%	34 60%	5 9%	0 0%	3 5%	
22 進路や福祉制度・サービスなどの情報を得て、保護者に分かりやすく説明している。		3.1	14 25%	30 53%	8 14%	1 2%	3 5%	
23 生活年齢に応じた児童生徒の指導や言葉掛け等を適切に行っている。		3.3	18 32%	31 54%	4 7%	0 0%	4 7%	
24 児童生徒の手足となるように言動、身なり、マナー等に配慮するとともに、服従規律を意識して行動している。		3.5	29 51%	25 44%	1 2%	0 0%	2 4%	
研修・専門性		25 知的障がいや自閉症、発達障がい等の特性を理解して、適切な指導をしている。	3.3	20 35%	29 51%	5 9%	0 0%	3 5%
		26 知的障害の教科や自立活動について理解し、順序性や系統性を踏まえて指導している。(教諭のみ回答)	3.1	7 12%	31 54%	2 4%	0 0%	17 30%
		27 研究・研修や情報収集に努め、根拠をもって授業や指導をしている。	3.2	14 25%	36 63%	3 5%	0 0%	4 7%
危機管理		28 児童生徒の個人情報の管理ができています。	3.5	30 53%	22 39%	4 7%	0 0%	1 2%
	29 マニュアルを熟知し、緊急時には児童生徒を安全な場所に避難誘導することができる。	3.2	13 23%	39 68%	4 7%	0 0%	1 2%	
	30 荒天候時、感染症流行時、Jアラート、搜索等の緊急時に対応をすることができている。	2.9	10 18%	33 58%	13 23%	0 0%	1 2%	
	31 給食や調理学習の際、アレルギーや異物混入に対する危機管理に万全を期している。	3.6	34 60%	20 35%	2 6%	0 0%	1 2%	
その他	32 学習費や行事費は適切に使うことができている。(寄宿舎指導員は小遣いや日常生活費とする)	3.6	34 60%	22 39%	0 0%	0 0%	1 2%	
	33 PTA活動に参加している。	3.2	20 35%	28 49%	6 12%	2 4%	1 2%	

平成29年度 紋別養護学校 学校評価保護者アンケート

全体数 31

回収数 30

回収率 97%

○評価4(よくあてはまる) 3(あてはまる) 2(あまりあてはまらない) 1(あてはまらない) 0(わからない)

※全体の平均値は 3.2 でした。

■ は、低い評価項目 ■ は、高い評価項目

全校

評価項目	平均値	評価4	評価3	評価2	評価1	評価0
1 本校は、本人や保護者の願いやニーズに応じた教育活動を行っている。	3.1	9 30%	18 60%	1 3%	1 3%	1 3%
2 「個別の指導計画」「寄宿舍個別の指導計画」はわかりやすく書かれ、わかりやすく説明されている。	3.7	20 67%	10 33%	0 0%	0 0%	0 0%
3 時間割や日課は、お子さんの実態に応じたものとなっている。	3.3	14 47%	14 47%	0 0%	0 0%	2 7%
4 授業は、お子さんの実態や障がいの状況に応じた、わかりやすい内容になっている。	3.4	14 47%	15 50%	0 0%	0 0%	1 3%
5 進路先等や放課後等ディサービスなどの情報等についてわかりやすく説明されている。	3.0	7 23%	19 63%	2 7%	0 0%	2 7%
6 小学部、中学部、高等部の学部間で指導が引き継がれている。	2.6	6 20%	15 50%	1 3%	1 3%	7 23%
7 お子さんの指導について、担任間、学部の教師間で共通理解した関わりができています。	3.2	11 37%	17 57%	0 0%	0 0%	2 7%
8 学校の職員は、言葉がけや態度など、お子さんの心情に配慮した指導に努めている。	3.4	14 47%	14 47%	2 7%	0 0%	0 0%
9 運動会、学校祭等の行事は、お子さんの身に付けた力を発揮する内容となっている。	3.2	11 37%	15 50%	2 7%	1 3%	1 3%
10 お預かりしている学習費や行事費等は、正しく使われている。	3.6	19 63%	11 37%	0 0%	0 0%	0 0%
11 学校の教室や設備等は、きれいに整理整頓されている。	3.3	12 40%	16 53%	1 3%	0 0%	1 3%
12 お子さんの健康状態や学習等の様子について、学級担任や舎室担当がわかりやすく伝えていいる。	3.6	18 60%	11 37%	1 3%	0 0%	0 0%
13 地域の教育資源を活用した教育活動や交流が行われている。	3.3	12 40%	16 53%	1 3%	0 0%	1 3%
14 アレルギーや異物混入の対策が適切になされ、安全に給食が提供されている。	2.9	8 27%	14 47%	6 20%	0 0%	2 7%
15 学校(寄宿舍)の給食献立は、子どもたちの嗜好や栄養など工夫されたものになっている。	3.1	11 37%	14 47%	2 7%	0 0%	3 10%
16 学校は危機管理に努め、安心安全な場所になっている。	3.2	10 33%	17 57%	2 7%	0 0%	1 3%
17 授業参観や学校行事に出席している。	3.0	7 23%	16 53%	6 20%	1 3%	0 0%
18 PTA活動に、参加している。	2.2	2 7%	10 33%	11 37%	6 20%	1 3%
19	0.0	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%

--